

5. 浜松市

令和3年度地方公共団体における効果的な熱中症予防対策の推進に係るモデル事業

目的

本市では、昨年(令和2年)8月に国内観測史上最高気温に並ぶ41.1℃を記録し、熱中症対策が急務となっているが、熱中症リスクの評価は行っておらず、市民への熱中症対策啓発活動は、市公式ホームページ掲載や協働センターへのチラシ配布などにとどまっている。このためモデル事業として支援を受けながらリスク評価を行い、効果的な熱中症予防対策の推進や熱中症警戒アラートの周知を図る。

《取組内容》

① 熱中症リスク評価

気象データ、熱中症搬送者数データ、市民アンケートを基に、過去から現在、そして将来における熱中症リスクを評価する。



② 庁内外組織による連携

庁内関係部局による熱中症対策ワーキンググループを立ち上げるとともに、浜松の街を活性化させる活動を行っている「浜松まちなかにぎわい協議会」と連携を行い、熱中症予防に関する会議を開催する。



③ 試行事業の実施

★講演会の実施★

気象予報士を講師に招いて、熱中症に関する講演会(来場者数500人を想定)を実施する。内容は市民同士の「声掛け」方法、熱中症警戒アラート情報を盛り込む。また、参加者に対して聴講前と聴講後の意識調査を行う。



★熱中症対策による市街地活性化の実施★

熱中症対策を行いながら市街地活性化も目指す取組を実施する。飲食店と連携して暑さ対策のスタミナメニューや涼感メニューの販売や、イベント会場では熱中症対策等シール貼付飲料の提供やミストグリーンを設置する。また、仲間が同じ部屋に集まって(クールシェア)楽しめるオンラインでのイベントを展開する。



④ 熱中症適応策の構築、計画書の作成

上記①～③の結果を基に、熱中症適応策を構築し、熱中症に関することを網羅した計画書を作成する。

